



敦賀亀義議員

特産品販売施設の整備を

高速道路の開通を見据えて

**問** 農林水産業を取り巻く状況は大きく変化している。

本町においては地域の特性、資源を生かした特産物づくりが推進されている。

しかし、その特産物の販売については、施設も少なく、また、小規模で

地域の人だけの利用にとどまっている。

近年は、スーパーマーケットの売場には、必ず地産地消コーナーが見受けられ、近くでは東部の琴浦町の道の駅、西部では日吉津のアスパル等、地元産品の販売に成果を上げている。

**答** (山口町長)

「大山恵みの里構想」に掲げる、安全で安心の食を提供する地産地消の仕組みは、大きなテーマとして認識している。

現在、大山恵みの里づくりプロジェクト推進会議で、本町の山の幸、海の幸など大山のイメージ向上に役立つ農林水産物や加工品、工芸品をどのように磨き、PRし、ブランド化するか検討している。それを具現化する手段として販売拠点を整備することは必要である。

にぎわう日吉津のアスパル



本町においても鮮度を付加価値として、特産物販売施設を作り、地産地消を推進することは、本町の農林水産業の活性化にもつながると考えるが。

空き地・遊休施設の処分を  
具体的な検討を進める



小原力三議員

**問** 空地や利用目的のない行政財産が放置されている。

財政難の折から早急に処分をし、財政に繰り入れ少しでも安定を図ってはどうか。

- (1) 豊房地内の焼却場はダイオキシン対策地指定になるか。
- (2) 香取分校と赤松分校の本校統合への考えは。
- (3) 旧庄内小学校・旧光徳

小学校の跡地利用は。(4) 旧大山町庁舎跡地はどうするのか。

**答** (山口町長)

(1) ダイオキシン類対策特別措置法第29条に基準が示されている。

知事が地域指定することができるとのことである。県内に指定された地域はなくこの施設も対象ではない。

(2) 香取分校は児童数4名の2学級、赤松分校は23名の4学級の編成である。少人数指導の中で個性や創造性の育成、切磋琢磨の学習機会をどう充実していくのか大きな課題である。

本年度幼児教育課を新設する。幼児教育や学校教育の在り方を総合的に協議したい。その中で分校の在り方、方向性を示すべきだと考えている。

(3) 学校を統合しても施設は十分に有効利用できる。校舎の一部を通学児童のスクールバスの待合所



取り壊しを待つ旧大山町役場

として利用するのも一つの方法。その他地域のコミュニティ活動、放課後児童クラブ、地域公民館、郷土資料の展示活用施設、NPO等への貸出し等々が考えられる。住民の意志を参考にしたい。

(4) JR大山口駅に近く、民間事業者の参入に格好の候補地と思う。若者定住対策の一つとして民間によるアパートなどの建設に用地の無償提供も検討している。

具体的な検討は今後行うが議員の皆さんの提案もいただきたい。